

経営学部（3つのポリシー）

教育の理念

経営学部は、環境変化に直面する企業や社会において、情報を収集・分析・統合しつつ、自ら課題を発見し、適切かつ迅速に解決できる人材を養成する。そのために、経営に関わる理論的・実践的研究の深い知識、仏教と禅による人間観とグローバルな視野による広い教養を礎に、合理的な分析とチームによる問題解決を実践できる能力を陶冶することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学部は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎	○	○	○			
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学部は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく配置し、多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように編成する。専門教育科目では経営に関わる理論的・実践的研究に関する科目を体系的に配置し、合理的な分析能力や問題解決力を高められるように編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「文章読解・作成教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。また、各学科には専門科目を体系的に学ぶことができるコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 6) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 7) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	演習科目			◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学部は、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 経営学部の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

- ・本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。
- ・入学後は建学の理念に沿い、学業を始めとした多様な活動に失敗を恐れることなく積極的にチャレンジし、粘り強く自己研鑽し続ける意欲がある。
- ・企業経営や市場戦略、社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学部で学んだ知識や技能を生かして社会に貢献する意欲がある。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

- ・大学での学修に必要な基礎学力を有している。特に、国語、英語、地歴公民、数学、情報について基礎的な学力を身につけている。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

- ・知識、技能を活用して自ら課題を発見し、考えることができる。
- ・基礎的な情報収集や分析の技術を身に付けており、分析・研究の成果をレポートやプレゼンテーション等により、分かりやすく他者に伝えることができる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

- ・目標達成、問題解決のために他者と協働して行う活動において、自分の意見を主張することができる。
- ・多様な意見や異なる価値観を生かして最良の結論を見出すため、チームを主導することができる。または、積極的にチームに貢献することができる。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：読解力や思考力を身につけている。
- ・外国語：英語を中心とした外国語4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）を修得している。
- ・地歴公民：社会や経済の基礎的な仕組みを理解している。
- ・数学：情報の分析に役立つ数学の知識と思考力を身につけている。
- ・情報：ICT（情報通信技術）を利用した情報の収集と分析についての基礎を身につけている。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力の向上に努める。
- ・異なる文化や社会背景を持つ人々を理解し、協力して活動することに努める。

経営学部 経営学科（3つのポリシー）

教育の理念

経営学科は、経営学分野の理論的・実践的知識および企業経営に関する論理的思考習慣と研究姿勢を身につけ、企業その他の組織において活躍できる人材の養成を目的とする。多元的な「企業を読む」力を持ち、主体的かつ協働的に洞察力・実行力・リーダーシップを発揮でき、組織における諸問題を迅速に解決できる人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

経営に関するさまざまな情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎	○	○	○			
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく配置し、多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように編成する。専門教育科目では経営に関わる理論的・実践的研究に関する科目を体系的に配置し、合理的な分析能力や問題解決力を高められるように編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「文章読解・作成教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。具体的には、専門教育科目を1年次科目、2年次科目、3・4年次科目という区分で段階的に配置することによって、効果的な学修を促進する。1年次は、「経営学基礎」「企業論」「簿記学」「会計学」「経済学概説」を必修科目として設置することによって、2年次以降の学修の基礎となる科目を配置する。2年次は、3・4年次に配置されるより専門的な科目の前提となる知識を提供する科目を選択必修科目として多く配置する。
- 6) 専門科目を系統的にかつ効果的に学ぶために、「企業経営コース」、「企業会計コース」、「経済分析コース」、「金融キャリアコース」という4つのコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 7) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。

- 8)理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1)「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2)演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3)演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5)教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6)学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
		外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
		保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	演習科目			◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学科は、駒澤大学及び経営学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 経営学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

- ・本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。
- ・入学後は建学の理念に沿い、学業を始めとした多様な活動に失敗を恐れることなく積極的にチャレンジし、粘り強く自己研鑽し続ける意欲がある。

- ・企業経営や市場戦略、社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学科で学んだ知識や技能を生かして社会に貢献する意欲がある。

(AP2) 入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

- ・大学での学修に必要な基礎学力を有している。特に、国語、英語、地歴公民、数学、情報について基礎的な学力を身につけている。

(AP3) 課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

- ・知識、技能を活用して自ら課題を発見し、考えることができる。
- ・基礎的な情報収集や分析の技術を身に付けており、分析・研究の成果をレポートやプレゼンテーション等により、分かりやすく他者に伝えることができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

- ・目標達成、問題解決のために他者と協働して行う活動において、自分の意見を主張することができる。
- ・多様な意見や異なる価値観を生かして最良の結論を見出すため、チームを主導することができる。または、積極的にチームに貢献することができる。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：読解力や思考力を身につけている。
- ・外国語：英語を中心とした外国語4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）を修得している。
- ・地歴公民：社会や経済の基礎的な仕組みを理解している。
- ・数学：情報の分析に役立つ数学の知識と思考力を身につけている。
- ・情報：ICT（情報通信技術）を利用した情報の収集と分析についての基礎を身につけている。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力の向上に努める。
- ・異なる文化や社会背景を持つ人々を理解し、協力して活動することに努める。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	○	◎	◎		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
学校推薦選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	全国商業高等学校長協会特別推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、かつ商業に関する知識・技能に秀で、全国商業高等学校長協会の推薦を得られた学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	

		小論文等	○	◎	◎		<p>本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	<p>本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	<p>本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		日本留学試験（成績）		◎			
		小論文等		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	<p>本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		小論文等		◎	◎		
英語			◎				
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		

経営学部 市場戦略学科（3つのポリシー）

教育の理念

市場戦略学科は、市場戦略に関する理論や応用を教育研究の中心的課題とし、企業において主体的に協働して市場戦略上の問題解決が図れる人材の養成を目的とすることを教育の理念とする。ここでの市場戦略とは、新たな顧客価値をもつ製品・サービスの創出や市場を介したその流通のために計画・実行される戦略を指す。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

市場戦略学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

企業活動における市場戦略の役割及びその重要性を理解し、市場戦略に関わる諸分野について体系的に修得した知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

市場戦略に関する情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、データにもとづき数量的な分析を行い、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やとも

に支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎	○	○	○			
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

市場戦略学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とした、文理横断的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく配置し、多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように編成する。専門教育科目では経営や市場戦略に関わる理論的・実践的研究に関する科目を体系的に配置し、合理的な分析能力や問題解決力を高められるように編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「文章読解・作成教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に高度な市場戦略を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。具体的には、専門教育科目を1年次科目、2年次科目、3・4年次科目という区分で段階的に配置することによって、効果的な学修を促進する。1年次は、「市場戦略概説」の他、経営学、経済学、会計学、情報処理の基礎を学ぶ科目を必修科目として設置することなどによって、2年次以降の学修の基礎となる科目を配置する。2年次は、3・4年次に配置されるより専門的な科目の前提となる知識を提供する科目を配置する。
- 6) 専門科目を系統的にかつ効果的に学ぶために、「市場創造コース」、「市場分析コース」、「現代産業・起業コース」という3つのコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 7) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。

- 8)理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した市場戦略に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1)「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2)演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3)演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) e ラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6)学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

市場戦略学科は、駒澤大学及び経営学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 市場戦略学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

- ・本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。
- ・入学後は建学の理念に沿い、学業を始めとした多様な活動に失敗を恐れることなく積極的にチャレンジし、粘り強く自己研鑽し続ける意欲がある。
- ・企業経営や市場戦略、社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学科で学んだ知識や技能を生かして社会に貢献する意欲がある。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

- ・大学での学修に必要な基礎学力を有している。特に、国語、英語、地歴公民、数学、情報について基礎的な学力を身につけている。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

- ・知識、技能を活用して自ら課題を発見し、考えることができる。
- ・基礎的な情報収集や分析の技術を身に付けており、分析・研究の成果をレポートやプレゼンテーション等により、分かりやすく他者に伝えることができる。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

- ・目標達成、問題解決のために他者と協働して行う活動において、自分の意見を主張することができる。
- ・多様な意見や異なる価値観を生かして最良の結論を見出すため、チームを主導することができる。または、積極的にチームに貢献することができる。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・国語：読解力や思考力を身につけている。
- ・外国語：英語を中心とした外国語4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）を修得している。
- ・地歴公民：社会や経済の基礎的な仕組みを理解している。
- ・数学：情報の分析に役立つ数学の知識と思考力を身につけている。
- ・情報：ICT（情報通信技術）を利用した情報の収集と分析についての基礎を身につけている。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・自分の考えを伝えるためのコミュニケーション能力の向上に努める。
- ・異なる文化や社会背景を持つ人々を理解し、協力して活動することに努める。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	○	◎	◎		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
学校推薦選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	全国商業高等学校長協会特別推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、かつ商業に関する知識・技能に秀で、全国商業高等学校長協会の推薦を得られた学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○

		小論文等	○	◎	◎		<p>本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	<p>本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	<p>本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		日本留学試験（成績）		◎			
		小論文等		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	<p>本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。</p>
		小論文等		◎	◎		
英語			◎				
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		